

第60回全国選抜少年剣道合宿錬成会報告書

a.実施期間 令和7年4月1日（火）～3日（木）

b.実施場所 全日本少年剣道錬成会館

c.実施内容

令和7年度最初の事業、第60回全国選抜少年剣道合宿錬成会を本部道場である全日本少年剣道錬成会館で開催した。本事業は新型コロナウイルス感染症拡大により令和2年度の第59回の急遽中止から7年ぶりの開催に至った。この間の状況の変化からも、今まで3泊4日で実施していた合宿錬成会を2泊3日とし、最終日の3日目を昼までの合宿錬成会として実施内容を濃くして実施した。全国より選抜された少年剣士36都道府県から38名が道場に集合。久しぶりの開催であったためか、今回の合宿錬成会への参加を見送る支部（県）もあったが、まずまずの参加人数であった。午後2時、部屋割りとオリエンテーションを終え予定通り、午後2時30分開講式を行った。まず、全道連岩立三郎副会長より「全国から集まった剣士により、新しい経験、体験が人を育て成長させる。皆さんにとってこの合宿錬成会が良き経験、体験になる事を期待します。」と挨拶。続いて各講師を紹介し、講師を代表して高野講師が「有意義な3日間を送っていただき自分自身のいろいろな面を高めるため色々なことに気づき実行して下さい。」と挨拶を述べ開講式を終了した。長旅の疲れもあると思うが、早速、高野講師の指揮による基本を中心とした錬成に入った。はじめに着装、礼法など所作事について注意説明が行われた後、素振りを行った。素振りについては構え、握り、刃筋を意識させて、竹刀の振り上げ振りおろし、発声法など様々な注意点をあげながら、気剣体一致、単純なことを正しく行うことを講習生に意識させながら指導された。素振りの後は、三人一組2班に分かれての切り返し、面打ち等基本打突に重点を置きながらの徹底した反復練習で技術の習得に努めた。基本打突後は、2分区切りで20分ほどの講習生同士の廻り稽古を行った後、講師元立ちでの指導稽古を30分ほど行い初日の講習を終了した。途中気の緩みのできた講習生に対し高野講師より「各県の代表で来ているのだと自覚をもって取り組まなければならない。」「1本1本心を込めて真剣に振込まなければやっている意味がない」「やろうという気迫を込めて稽古に取り組まなければこの合宿錬成会に参加している意味がない。」と注意があったが各地区より選抜された講習生だけあり、その後は見違えるほど集中した姿勢で講習に励み十分鍛えられた様子が伺えた。

その後、入浴、夕食の配膳片付けなどを部屋ごとの当番制で行い、食事後は各自、日記を付けたりして自由時間を過ごし、午後8時全員で館内の清掃を行ったが、便所・風呂場の清掃には毎回のように戸惑った姿が見受けられる。つかの間の休憩の後、午後9時、道場に全員集合し、これまでの諸注意と明日からの予定などを話し、就寝についた。長旅の疲れと、講習会初日の気疲れのためか就寝時間前には各部屋ともに静かになっていた。

2日目、6時30分起床・点呼。体操で体をほぐし朝食を取った。

午前の部は、9時より栄花講師による剣道講話から行われた。講話は、世界大会に出場するまでや全日本選手権で優勝するまでの苦労話や体験談、「夢」をつかむために何をするべきか、「夢」は簡単につかめるものではない、達成できなくてもその過程が大事という話の中から、剣道は楽しい、剣道は止められない、死ぬまで修行ということに気づいたなど、何歳になっても剣道を続けて行くことが大切であるとの内容で行われ、日常生活の中にこそ剣道修練で培ったものを生かしていかなければならないと講習生各自が考え直す良い機会になったと感じた。

10分休憩の後、豊村講師の担当で「木刀による剣道基本技稽古法」を指導。

講習は剣道基本技稽古法が制定された目的と稽古法を行う上での注意点などを説明。特に打突時の発声をはっきり行うようにと注意が行われさっそく実技に入った。二人一組の2列にわかれて基本1より基本9まで1本ずつ丁寧に所作や約束事の注意などを交えなが

らの指導が行われた。ほとんど全員が経験者で基本 9 までの実技も滞ることなく短時間でマスターしたため、竹刀剣道でも応用できるよう基本技稽古法を発展させた様々なバリエーションで、特に鎧の使い方を意識させた稽古法の講習が行われた。短時間であったが全員が基本 9 までの全てを滞る事無くマスターした。その後、スケジュールにはなかったが急遽、岩立三郎副会長による剣道講話を行った。「四恩に謝す」と題して、1 に父・母への恩、2 に道場（国）への恩、3 に先生への恩、4 に友達（剣友）への恩について触れ、それぞれの段階には悩みがあり、いわゆる「山々雲」といって、それぞれの段階には悩みがありその悩みを払いのけながら進む、いいかえれば一生修行というお話をいただき、午前の講習を終了した。

昼食、休憩の後、午後の講習が行われた。

午後の部は、まず高橋講師が昨日の復習（三人一組 2 班に分かれて切り返し面打ちなど）を行った後、出ばな技他の指導と打ち込み稽古を行い 10 分ほど休憩の後、講習生同士の回り稽古を 15 分、講師元立ちで指導稽古を 40 分ほど行い 2 日目の講習を終了した。

最終日の 3 日目は 6 時に点呼の後、6 時 30 分より早朝稽古を行なった。まず、栗田講師の指揮のもと素振りをまず行い、面付け後は切り返し、面打ちをおこない講習生同士の回り稽古と講師元立ちの指導稽古を行い最後の講習を終えた。道場のあちらこちらで、活気あふれる稽古が行われ、力を振り絞り気力ある稽古で心地よい汗を流した。

朝食後、9 時より、紅白戦形式で対抗戦を行ったが、流石に全国より選抜されただけに気力、技、スピードに優れた少年剣士が多く見応えのある試合内容であった。休憩の後、これまでの総復習とお互いの稽古により最終日 3 日目の稽古を終了した。

稽古終了後、引き続き閉講式を行い、全道連岩立三郎副会長より閉会の辞。講習生の代表として北海道の尾崎大成君に全員の修了証を手渡し、全国選抜少年合宿錬成会の全てを終了した。

その後、昼食を済ませ全員で館内の清掃および帰宅の準備をし、準備の出来た者より、帰路についた。最初は無言だった者同士が合宿中に仲が良くなり、別れ惜しかったのか、父兄の迎えが着た後もしばらく談笑している姿が多々見られたが、それぞれ夏の日本武道館での全国道場少年剣道大会、10 月に鹿児島で開催される全国少年剣道選手権大会での再会を誓い解散して行った。

今回の合宿錬成で少年剣士達は、2 泊 3 日と短い日程ながら、講師と寝食を共にし、正しい剣道を学び、遠く離れた各地の剣友達と規律を守り、協力調和の心を持つての団体生活を体験し、友情も深めた。此のことは少年達にとって貴重な経験であり、今後の剣道と人生に有意義な影響を与えたものと思える。

又、今回の講習生の中から将来の剣道を担う剣士が育ってくれる事を期待する。

受講生数 38 名

講 師	高野 力	教士八段
	栄花 直輝	教士八段
	高橋 海有	教士八段
本部講師	岩立 三郎	範士八段
	豊村 東盛	範士八段
	栗田和市郎	範士八段

第80回剣道指導者研修会 報告書

- a 実施期間 令和7年11月7日（金）～11月9日（日）
- b 実施場所 全日本少年剣道錬成会館
- c 実施内容

指導者の指導力・技術の向上を目的とした剣道指導者研修会を、全日本少年剣道錬成会館で開催した。新型コロナウイルス感染拡大の影響により令和2年、3年度に中止した本講習も前々回の78回からコロナ禍以前に講習内容を戻し、3日間の日程で行った。コロナ禍以前のように研修会申込上限の50名を超える講習生が錬成会館に宿泊した。

講習初日、太田忠徳講師、下諸純孝講師、山中佳英講師及び本部講師である岩立三郎副会長、豊村東盛専務理事、栗田和市長常務理事の全講師による打ち合わせを経て、14時30分に開講式を始めた。岩立三郎副会長より全日本剣道道場連盟を代表して挨拶を頂いた後、講師を代表し太田忠徳講師より「3日間、けがの無いよう、実りのある講習会となるよう講師一同全力で取り組む。」との挨拶を頂いた。その後、改めて講師陣を紹介し早速講習に移った。

直ちに実技指導（立会）を開始し、岩立副会長・太田講師・豊村専務理事と、下諸講師、山中講師、栗田常務理事の2組に分かれ、立会（審査）形式により各3～5名のグループに対し指導が行われた。研修生の現在の技量を計ると共に、審査に向けたアドバイスのみならず、剣道技術向上や普段の稽古で留意する点など各講師から研修生ひとりひとりに説明された。

立会い終了後、休憩を挟んだ後、講師元立ちによる指導稽古を17時45分まで行い、初日の講習を終了した。

2日目は9時より岩立副会長による講話から開始した。岩立副会長は、今月に控える審査会に臨むにあたっての重要点を述べられた。まず、「小心翼翼・大胆不敵・油断大敵」の言葉通り、審査において実践された3名の方々を紹介し、審査に臨む姿勢では、準備、実行、締め括りの大切さを力説された。また、ご自身が八段審査に臨んだ際の実践談を含め、左手・左足の充実さ、相手を見るのではなく、相手が見えている状態、そして、自己の得意技をどこでどう使うか、得意技を出し切る必要性について述べられた。50分の講話時間であったが、講習生が岩立副会長の話に引き込まれ瞬く間に講話時間が過ぎた感であった。

引き続き、太田講師解説のもと日本剣道形に移った。剣道形の五つの構えから丁寧に指導があり、栗田講師と手本を示しての各技の詳細の説明を挟みながら、研修生は打太刀、仕太刀を交代し形の稽古を行った。限られた時間ながら、太刀の形、小太刀の形全てを通し充実した講習となった。

昼食時間を挟み、午後の部は13時15分より、約30分間、山中講師には自己の体験談を語っていただいた。山中講師は本年8月の八段審査会で合格し、審査に臨む姿勢や当日の心境について語られた。小中学生と稽古を行う際のも気を抜かない稽古の実践、私生活でも迷わない体験談、いつも通りを審査で出すうえでの普段の稽古

の臨み方など、これから審査を受審する方々に役立つ体験談であった。

その後、豊村専務理事による指導法・木刀による剣道基本技稽古法が15時25分まで行われた。殆どの研修生がこの基本技稽古法を経験し、かなり浸透してきた為、講習は、竹刀剣道に活かすことを主眼にし、豊村講師が実技の中で、剣道の技との関連性を説明し、気を抜かない稽古の実践、発声の重要性、鎧の使い方を実践しながら指導が行われ、1時間弱であったが成果を上げた。この稽古法の趣旨は近年、剣道が競技的な傾向が強すぎるとして、剣道の原点である刀法を意識させ剣道の質を高める為に制定されたものである。全道連では今後もこの木刀による剣道基本技稽古法を全国的に普及指導する考えである。

休憩をはさみ、下諸講師による素振り、面をつけての基本打ち、切り返し等の実技指導が行われた。講習はこれまで講師が修練研究され体得したものを示範しながら詳細説明の指導で大変意義ある内容であった。その後、研修生による回り稽古を実施し、特別講師として、小山則夫講師、矢野雅之講師をお迎えして、全講師元に立ち、指導稽古を行った。

18時30分からは、講師・講習生を交えての懇親会・意見交換会を実施し、少年剣士の減少問題、指導方法、稽古方法、審査に臨む姿勢、本日の講習の感想など様々な意見交換を行い、1日目の講習は終了した。

最終日は午前6時半より早朝稽古となっていたが、開始時間前に稽古が始まり、この研修に懸ける意気込みが伝わってくる。約50分の稽古で心地よい汗を流した。

午前9時より初日同様、審査を想定した二回目の立合いを実施した。この二日間講師にアドバイスを受け修練した成果を試す時である。研修生は最後の立合いとあって一段と気迫溢れ、毎回ではあるが初日の立会よりも格段に内容がよく、自分の力を出し切っていたようであった。1組終わるごとに講師から初日同様、懇切なアドバイスを受けて2時間程の立ち合いを修了し、その後、講師陣も元に立ち稽古を実施し、3日間の実技講習が終了した。

閉講式では、講師を代表し、太田講師より講評が述べられ、引き続き、岩立副会長が「3日間の研修を通して学んだことを地元に戻っても実践して頂き、率先垂範の意識で修業に励んで頂きたい。また、審査を受審される方は全てを出し切って審査に挑んで頂きたい」旨の挨拶を述べ、研修会のすべてを終了した。今回も熱意溢れる講師陣の指導のもとに大きな成果を上げた。

d 参加人数 52 名

講 師	太田 忠徳	範士八段
	下諸 純孝	範士八段
	山中 佳英	教士八段
特別講師	小山 則夫	教士八段
	矢野 雅之	教士八段
本部役員 副会長	岩立 三郎	範士八段
本部講師 専務理事	豊村 東盛	範士八段
	常務理事 栗田和市郎	範士八段

第 8 1 回剣道指導者研修会 報告書

①実施期間 令和 8 年 2 月 2 7 日（金）～ 3 月 1 日（日）

②実施場所 全日本少年剣道錬成会館

③実施内容

指導者の指導力・技術の向上を目的とした剣道指導者研修会を、全日本少年剣道錬成会館で開催した。3 日間の日程で行い、コロナ渦以前のように研修会申込者数が増え、総勢 4 5 名の講習生が参加した。

講習初日、東良美講師、松田勇人講師、山中佳英補助講師及び本部講師である岩立三郎副会長、豊村東盛専務理事、栗田和市長常務理事の全講師による打ち合わせを経て、1 4 時 3 0 分に開講式を始めた。岩立三郎副会長より全日本剣道道場連盟を代表して挨拶を頂いた後、講師を代表し東良美講師より「3 日間、けがの無いよう、実りのある講習会となるよう講師一同全力で取り組む。」との挨拶を頂いた。その後、改めて講師陣を紹介し早速講習に移った。

直ちに実技指導（立会）を開始し、岩立副会長・東講師・栗田常務専務理事と、松田講師、山中講師、豊村専務理事の 2 組に分かれ、立会（審査）形式により各 3 ～ 5 名のグループに対し指導が行われた。研修生の現在の技量を計ると共に、審査に向けたアドバイスのみならず、剣道技術向上や普段の稽古で留意する点など各講師から研修生ひとりひとりに説明された。

立会い終了後、休憩を挟んだ後、講習生同士の回り稽古、そして、講師元立ちによる指導稽古を 1 7 時 4 5 分まで行い、初日の講習を終了した。

2 日目は 9 時より東良美講師による講話から開始した。東講師は、5 月に控える審査会に臨むにあたっての重要点を述べられた。人のまねだけではダメで、中山博道先生の教えにある「苦徹」の実践や持田盛二先生の遺訓にあるように基礎・基本にたどり着く必要性を述べられた。日頃の稽古でどれだけやっているか、中山博道先生の「苦徹」に示されたようにまだまだと思っただけ稽古することが大事であることを述べられた。そして、指導者として、周りから応援され、一緒にやって剣道が楽しいと思われる人になることを望み、徳を得るには、「挨拶」の重要性、簡単なことをきちんとやることの必要性を述べられた。そして、一昨年の世界大会の監督として携わった際の秘話を述べられた。5 0 分の講話時間であったが、講習生が東講師の話に引き込まれ瞬く間に講話時間が過ぎた感であった。

引き続き、松田講師解説のもと日本剣道形に移った。日本剣道形制定の経緯、日本剣道形解説書、講習資料及び日本剣道形の共通理解の説明、そして、剣道形の五つの構えから丁寧に指導があり、山中講師と手本を示しての各技の詳細の説明を挟みながら、研修生は打太刀、仕太刀を交代し形の稽古を行った。限られた時間ながら、太刀の形、小太刀の形全てを通し充実した講習となった。

昼食時間を挟み、午後の部は 1 2 時 5 0 分より、約 5 0 分間、岩立副会長より剣道講話を頂戴した。審査会に臨むにあたっての重要点、特に八段審査では、一次審査から二次審査までの気持ちの整え方、一次より二次審査をより元気に立ち会うこと、腰を決めて両ひざの内側に力を入れての構えからの一連の打突に繋げる重要性、そして、

相手と立会った際の「見る」と「見えている」との違い、など本番の審査を想定した自らの体験談による講話となった。

その後、豊村専務理事による指導法・木刀による剣道基本技稽古法が岡村敏博講師を補助講師として、14時40分まで行われた。殆どの研修生がこの基本技稽古法を経験し、かなり浸透してきた為、講習は、竹刀剣道に活かすことを主眼にし、豊村講師が実技の中で、剣道の技との関連性を説明し、気を抜かない稽古の実践、発声の重要性、鎧の使い方を実践しながら指導が行われ、1時間弱であったが成果を上げた。この稽古法の趣旨は近年、剣道が競技的な傾向が強すぎるとして、剣道の原点である刀法を意識させ剣道の質を高める為に制定されたものである。全道連では今後もこの木刀による剣道基本技稽古法を全国的に普及指導する考えである。

休憩をはさみ、東講師による素振り、面をつけての基本打ち、切り返し、仕かけ技、出ばな技、等の実技指導が行われた。講習はこれまで講師が修練研究され体得したものを示範しながら詳細説明の指導で大変意義ある内容であった。その後、研修生による回り稽古を実施し、特別講師として、小山則夫講師、岡村敏博講師、山中佳英講師をお迎えして、全講師元に立ち、指導稽古を行い17時に終了した。

18時30分からは、講師・講習生を交えての懇親会・意見交換会を実施し、少年剣士の減少問題、指導方法、稽古方法、審査に臨む姿勢、本日の講習の感想など様々な意見交換を行い、1日目の講習は終了した。

最終日は午前6時半より早朝稽古となっていたが、開始時間前に稽古が始まり、この研修に懸ける意気込みが伝わってくる。約50分の稽古で心地よい汗を流した。

午前9時より初日同様、審査を想定した二回目の立合いを実施した。この二日間講師にアドバイスを受け修練した成果を試す時である。研修生は最後の立合いとあって一段と気迫溢れ、毎回ではあるが初日の立会よりも格段に内容がよく、自分の力を出し切っていたようであった。1組終わるごとに講師から初日同様、懇切なアドバイスを受けて2時間程の立ち合いを修了し、その後、講師陣も元に立ち稽古を実施し、3日間の実技講習が終了した。

閉講式では、講師を代表し、東講師より講評が述べられ、引き続き、岩立副会長が「3日間の研修を通して学んだことを地元に戻っても実践して頂き、率先垂範の意識で修業に励んで頂きたい。また、審査を受審される方は全てを出し切って審査に挑んで頂きたい」旨の挨拶を述べ、研修会のすべてを終了した。今回も熱意溢れる講師陣の指導のもとに大きな成果を上げた。

④参加人数 45 名

講 師		東 良美	範士八段
		松田 勇人	範士八段
特別講師		小山 則夫	教士八段
		岡村 敏博	教士八段
		山中 佳英	教士八段
本部役員	副会長	岩立 三郎	範士八段
本部講師	専務理事	豊村 東盛	範士八段
	常務理事	栗田和市郎	範士八段

東北地区（岩手県）剣道道場指導者講習会報告書

実施期間 令和7年10月25日（土）～10月26日（日）

実施場所 岩手県盛岡市岩手県営武道館

実施内容

本講習会は東北地区（岩手県）の剣道指導者を対象に、各指導者の交流、本部事務局との意見交換を図り、少年剣道普及を資する事を目的とし岩手県剣道道場連盟主管のもと実施された。

1日目12時30分、本部講師及び地元講師、県内役員、事務局が顔を合わせ、日程・指導内容の確認を行った。13時30分からの開講式では、主管県岩手県剣道道場連盟谷藤敬人事務局長司会のもと、菊池長悦岩手県剣道道場連盟会長より開会と歓迎の言葉を込めた挨拶、特に少年指導に主眼を置く指導の必要性等のことばを頂いた。引き続き司会より講師紹介、日程の説明の後、早速講習に入った。

1日目は筆頭講師である豊村東盛範士八段より少年指導上の重要ポイントや高段受審者に向けた心構えなどの講話を行った。特に、これからの剣道普及を行う上で、女性と高齢者への剣道普及が重要であること、少子化が進む現在、是非、入門した子供達をほめて育てる、剣道を辞めさせない指導を行って欲しいと希望の言葉が述べられた。

その後、栗田和市郎範士八段により、審判法の実技の講習が行われた。審判員の心構え、有効打突、反則行為等の説明の後、まず、1試合場で講習生3名が実際に審判を行い、その都度試合を止めながら、有効打突の正しい見極め、禁止行為の厳正な判断と処置、位置取り等について確認と解説を交えながら講習生に説明を行った後、2試合場に分かれ、それぞれの会場を下川祐造教士八段、大向廣教士八段が講師となり、受講生をそれぞれ3人1組に分け、また、岩手県内の道場連盟加盟道場から選抜された中学生が試合を行う形式で審判の実技講習が行われた。実技講習は、それぞれ、各試合において、有効打突の正しい見極め、禁止行為の厳正な判断と処置、位置取り等について確認と解説を、注意を要する時は試合を止めて意見を聞いて指導をするなど、時間が短く感じる中身の濃い講習が行われ、16時10分に終了した。

休憩をはさみ16時20分より実技指導が行われた。講習は、まず受講生同士の回り稽古を数回行い講師がそれぞれの稽古の内容についてアドバイスし、その後講師が元立ちとして指導稽古を約40分行って1日目の講習は終了した。

会場を移し、19時より盛岡市内で小笠原宏志岩手県剣道連盟会長を交え、意見交換会を行い、少年剣士の減少問題、指導方法、稽古方法、本日の講習の感想

など様々な意見交換を行い、1日目の講習は終了した。

2日目は午前9時、栗田和市郎講師により、1日目に引き続き、審判法の講習を行った。1日目同様、2試合場に分かれ、それぞれの会場を下川祐造教士八段、大向廣教士八段が講師となり、受講生をそれぞれ3人1組に分け、また、岩手県内の道場連盟加盟道場から選抜された小学生が試合を行う形式で審判の実技講習が行われた。実技講習は、それぞれ、各試合において、有効打突の正しい見極め、禁止行為の厳正な判断と処置、位置取り等について確認と解説を、注意を要する時は試合を止めて意見を聞いて指導をするなど、昨日よりポイントを押さえた審判法の実技講習となり、内容の濃い講習が途中休憩をはさみながら行われ、11時30分に終了した。

午後は、昼食休憩の後、12時20分より日本剣道形の講習を行い、まず豊村講師が資料をもとに日本剣道形の修練上の心得や留意点等を説明した後、まずは、段別に組まれた受講生同士で太刀の7本目、小太刀3本を実際に打たせ、講習生の習熟度を判断した後、栗田講師を助手として、数本ごとにポイントや注意点を実践説明し、その後、講習生が実技を行うことをくり返す形で講習を行い、太刀7本、小太刀3本の全てを修練し講習を終えた。豊村講師からは、地稽古、打ち込み稽古、剣道形による修練の重要性、特に、剣道形によって、呼吸、間合い、打突の機会、手の内、応じ技等を習練することの重要性が述べられた。その後、参加者全員での写真撮影を行い、指導法の実技講習に移った。昨日同様、実技講習は、まず受講生同士の回り稽古を数回行い講師がそれぞれの稽古の内容についてアドバイスし、その後講師が元立ちとして指導稽古を約40分行って講習を終了した。

実技講習終了後、「閉講式」が行われ、豊村全道連専務理事より講評として、岩手県内での講習会開催の謝辞が述べられた後、稽古では、打ちっぱなしにしない、縁を切らない稽古の重要性が述べられた。最後に菊池長悦岩手県剣道道場連盟会長より閉会の辞が述べられ講習会を終了した。

最後に今回の講習会において、講習会の告知から準備、運営をして頂いた岩手県剣道道場連盟の役員、事務局の皆様、並びに試合者を務めて下さった小中学生剣士の皆様に深く感謝の意を表します。また、岩手県外からも青森県、秋田県、宮城県、山形県からも多くの受講生が参加されたことに感謝いたします。

受講生	25日	63名	26日	69名	
講 師	豊村 東盛	範士八段	栗田和市郎	範士八段	
地元講師	下川 祐造	教士八段	大向 廣	教士八段	

九州地区（沖縄県）剣道道場指導者講習会報告書

実施期間 令和8年2月14日（土）～2月15日（日）

実施場所 沖縄県立武道館 第二錬成道場

実施内容

本講習会は九州地区（沖縄県）の剣道指導者を対象に、各指導者の交流、本部事務局との意見交換を図り、少年剣道普及を資する事を目的とし沖縄県剣道道場連盟主管のもと実施された。

1日目13時30分、本部講師及び地元講師、県内役員、事務局が顔を合わせ、日程・指導内容の確認を行った。14時からの開講式では、主管県沖縄県剣道道場連盟事務局諸喜田徹氏の司会のもと、松川罔隆沖縄県剣道道場連盟会長より開会と歓迎の言葉を込めた挨拶、道場連盟の講習会としては40年ぶりの開催であること、そして、特に少年指導に主眼を置く指導の必要性等のことばを頂いた。引き続き、全日本剣道道場連盟を代表し、岩立三郎副会長が挨拶と沖縄県道場連盟へのお礼を述べた。その後、司会より講師紹介、日程の説明の後、早速講習に入った。

1日目は豊村東盛範士八段より、木刀による剣道基本技稽古法の指導を指導者だけでなく、小中学生に向けても行った。

その後、栗田和市郎範士八段により、指導法として、正しい素振りの実演、その後、面をつけての切り返し、打ち込みを行った後、まず、小学生同士、中学生同士、受講生同士の回り稽古を数回行い講師がそれぞれの稽古の内容についてアドバイスし、その後講師が元立ちとして指導稽古を約40分行って1日目の講習は終了した。そして、会場を移し、19時より那覇市内の県立青年会館で、意見交換会を行い、少年剣士の減少問題、指導方法、稽古方法、本日の講習の感想など様々な意見交換を行い、1日目の講習は終了した。

2日目は、午前9時25分より、全道連岩立三郎副会長から、剣道講話を行っていただいた。まずは、少年に向けて、「四恩」①父母、②国（道場）、③先生、④剣友に対して感謝すること、そして、「山々雲」剣道は高き山をば登るごと一山越せば前に又山と剣道の修行では、段位を重ねていっても、修行の途中には悩みなど自分の前に雲がかかり、その雲を払いのけて進まなければならないと説示された。その後、一般の講習生にも指導者の要件として、姿勢正しく、自らの修行を示範すること、そして、審査にあたっては、姿勢、元気さ、機会のとらえ方の重要性などについて約50分講話いただいた。

その後、栗田和市郎範士が審判法を担当し、審判員の心構え、有効打突、反則行為等の説明の後、まず、1試合場で講習生3名が実際に審判を行い、その都度

試合を止めながら、有効打突の正しい見極め、禁止行為の厳正な判断と処置、審判員の位置取り等について確認と解説を交えながら講習生に説明を行った後、2試合場に分かれ、それぞれの会場を地元講師の中村均教士七段、大浦勲教士七段が講師となり、受講生をそれぞれ3人1組に分け、また、沖縄県内の道場連盟加盟道場から選抜された小・中学生並びに高校生が試合を行う形式で審判の実技講習が行われた。審判の実技講習は、それぞれ、各試合において、有効打突の正しい見極め、禁止行為の厳正な判断と処置、位置取り等について確認と解説を行い、注意を要する時は試合を止めて意見を聞いて指導をするなど、時間が短く感じる中身の濃い講習が行われ、12時15分に終了した。

昼食休憩をはさみ13時より、親川沖縄県剣道連盟会長からご挨拶をいただき、その後、豊村東盛範士による日本剣道形の指導が行われた。まず、豊村講師が資料をもとに日本剣道形の修練上の心得や留意点等を説明した後、段別に組まれた受講生同士で太刀の7本目、小太刀3本を実際に打たせ、講習生の習熟度を判断した後、栗田講師を助手として、数本ごとにポイントや注意点を実践説明し、その後、講習生が実技を行うことをくり返す形で講習を行い、太刀7本、小太刀3本の全てを修練し講習を終えた。豊村講師からは、地稽古、打ち込み稽古、剣道形による修練の重要性、特に、剣道形によって、呼吸、間合い、打突の機会、手の内、応じ技等を習練することの重要性が述べられた。

その後、昨日同様、実技講習は、まず受講生同士の回り稽古を数回行い、講師がそれぞれの稽古の内容についてアドバイスし、その後講師が元立ちとして指導稽古を約40分行って講習を終了した。

実技講習終了後、「閉講式」が行われ、岩立三郎全道連副会長より講評として、沖縄県内での講習会開催の謝辞が述べられた後、沖縄県剣道道場連盟事務局の諸喜田徹氏より閉会の辞が述べられ講習会を終了した。

最後に今回の講習会において、講習会の告知から準備、運営をして頂いた沖縄県剣道道場連盟の役員、事務局の皆様、並びに試合者を務めて下さった小中学生剣士・高校生剣士の皆様に深く感謝の意を表します。

受講生	14日	39名	15日	44名
講師	岩立 三郎	範士八段		
	豊村 東盛	範士八段	栗田和市郎	範士八段
地元講師	中村 均	教士七段	大浦 勲	教士七段

第44回京都会員講習会 報告書

- a. 実施期日 令和7年5月4日(日)
- b. 実施場所 京都武道センター主競技場
- c. 実施内容

全日本剣道演武大会(京都大会)第2日目、午後5時より京都武道センターにおいて、第44回京都会員講習会を全道連加盟道場に関係する範士、教士八段の講師64名を迎え、全国から約200名の会員及び連盟関係者が参集し講習会を開催した。新型コロナウイルス感染症蔓延により令和2年に本事業を中止して、昨年度再開してから2度目の開催となった。

演武大会が例年より若干早く終了し、17時、栗田和市長全道連常務理事司会進行のもと整列開始した。主催者として全日本剣道道場連盟 岩立三郎副会長が、皆さん健康で長く稽古に励んで頂きたいという旨の挨拶を行い、続いて主管を代表し緒方勝昭京都府剣道道場連盟会長が、歴史ある会を開催できる感謝と、併せて講師、参加者への歓迎の挨拶を述べた。

続いて栗田常務理事より講習会の進行説明があり、早速講習会に入った。まず会員同士の回り稽古を5回行い、続いて、講師が元に立ち指導稽古を行った。各支部に案内した申し込みには、地元京都からの参加者が圧倒的に多かったが、京都以外の支部からも当日参加者が多くおり、全体的には約200名の関係者の参加となり、近年では最高人数の出席者による活気ある講習となった。

全国各地で活躍される講師陣により熱のこもった指導が続けられ、18時、約1時間の講習を終了した。整列後、最後に太田忠徳全道連副会長が講師を代表して、集まって頂いた講師、参加頂いた講習生に謝辞を述べ、講評とした。以上で意義ある講習会は無事終了した。

今年も講師、会員に多数参加頂き、コロナ禍以前を上回る参加数と熱気を感じる内容となった。道場連盟の情報交換、対外への会員勧誘の場としても活用し、更に発展するよう関係者皆様に協力をお願いしたい。

最後に、本講習会にあたり会場の手配、告知等の準備をして頂いた京都府剣道道場連盟の役員、事務局の皆様に深く感謝の意を表し報告とする。

d. 参加者

講師 範士八段 教士八段 64名

受講生 教士七段以下 約200名

(受講者名簿記入者は139名であったが、無記名の参加者を入れると約200名であった。)